

はじめに

本書は主に国内の英語教育系学会が発行するジャーナル（いわゆる学会誌・紀要）に論文を掲載するための方法やコツ、注意点などをまとめた執筆ガイドブックである。論文の基本的な構成や研究方法別の論文の書き方のポイントを整理したうえで、投稿の準備段階から実際の投稿・掲載までのプロセスを簡潔に説明する。その中で、論文や査読者・投稿者間のやりとりの具体例を挙げながら、ジャーナルに掲載される論文を書くためのノウハウを、査読者・投稿者、さらにジャーナルの編集者それぞれの立場から紹介する。

国内の大きな学会組織、例えば全国英語教育学会（JASELE）、大学英語教育学会（JACET）、全国語学教育学会（JALT）では年1～2回ジャーナルを発行しているが、本書の執筆者らは皆、これらのジャーナルに複数の論文を掲載してきた研究者ばかりである。例えば、私（廣森）はこれまで『全国英語教育学会紀要』（ARELE）に4編、『大学英語教育学会紀要』（*JACET Journal*; 旧 *JACET Bulletin*）に4編、『全国語学教育学会紀要』（*JALT Journal*）に2編の論文を掲載するとともに、それぞれのジャーナルの査読・編集作業にも携わってきた。そこでの経験から、各誌の投稿手続きや投稿テンプレート、査読の審査観点などには多少の違いはあるものの、類似した点も多いことを学んできた。つまり、論文を投稿し、掲載に結びつけるには、ある種の「型」や「作法」が存在するのである。本書は、経験豊富な著者らが、これまでは「ブラックボックス」に閉じ込められてきたそれらの型や作法を惜しげもなく公開した画期的な試みである（ちょっと惜しいと思っている著者もいるかもしれないが…）。

以下、本書の構成を簡単にまとめる。序章では論文執筆に関する“WHY”として、なぜ論文を書くのかについて述べる。国内外の高等教育機関に就職したりそこで昇進・昇格しようと思えば、著書や論文などの研究業績を求められるのが一般的である。では、論文を書くのはそのためだけだろうか？

近年は小中高や教育センターなどでも研究紀要を発行するところが増えてきているが、それはなぜだろう？ 学会等で研究成果を公表するだけでなく、論文の形として文字に残すことにどんな意味があるのだろうか？ 本書ではまず、これらの点を確認することから始めたい。

続く第1部では、具体例を豊富に挙げながら、論文とはどのようなものか、すなわち“WHAT”について紹介する。はじめに論文の一般的な構成を確認したのち、代表的な研究方法（量的研究、質的研究、文献・理論・方法論研究）別に論文の書き方のポイントを整理する。これらの章を読むことで、読者は各研究がどのようなものかイメージできるようになるだけでなく、実際にそれらの方法を用いて論文を書く際に気をつけるべき留意点などについて学ぶことができる。なお、本書では実践論文は中心的に扱ってはいないが、本書の内容は実践論文を執筆する上でも役立つであろう。

第2部は本書の中心をなす部分である。ここではまず論文をどのように書くのか、すなわち“HOW”に焦点を当て、論文の投稿準備から掲載までのプロセスをわかりやすく示す。さらに、多くの論文を投稿、査読、編集した経験を持つ執筆者らが論文の掲載（採択）率を高めるために、論文執筆上どのような工夫や配慮が必要になるかをそれぞれの立場からまとめる。また、第2部の最後には「研究倫理」の章を位置づけている。これは本書の執筆者らが論文をどのように書くのかを考えるとあたって、^{ひようせつ}剽窃、^{ねつぞう}捏造、重複投稿といった問題や調査（実験）参加者に対する倫理的配慮を重要な問題として認識していることの現れでもある。

本書巻末には、参考資料として国内の主要なジャーナルを参考に、一般的な投稿テンプレートや投稿規定の具体例をまとめる。どれほど研究内容が優れていても、ページ数やフォーマットなど投稿規定に従っていない論文は審査対象とならず、査読に回る前に差し戻されてしまうことがある。特に初めてジャーナルに論文を投稿しようとする読者は参考資料を見本とすることで、投稿の手続きをよりスムーズ、かつ着実に進めることができるはずである。

なお、英語教育に関する論文の多くが依拠するスタイルシートであるアメリカ心理学会（APA）の出版マニュアル、*Publication Manual of the Amer-*

ican Psychological Association の第 7 版がこのほど出版・公表された（本書では以下、本文中では APA 第 7 版，カッコ内では APA，2020 とする）。投稿テンプレートをはじめとする本書の記述内容は，このアップデートを反映しており，いわば「APA 最新版準拠」とも呼べるものである。

また本書には，各章末に「コラム」を設けている。各コラムは 3 種類に大別できる。1 つ目は，1 つの章を使って紹介することはできなかったものの，論文の執筆・投稿を考える上でカバーしておきたい重要なトピック（例えば，英語で論文を書くコツなど）を取り上げている。2 つ目は，実際にジャーナルに論文を掲載した小中高の現職教員や大学院生に，それぞれ具体的な経験談やエピソードを語ってもらっている。3 つ目は，特に海外のジャーナルへの論文投稿をめざす読者へのひと言アドバイスである。本書は主に国内のジャーナルを念頭に置いているが，将来的にはぜひ海外のジャーナルも視野に入れてもらいたい。各コラムを通じて，多くの読者が論文執筆のポイントや魅力を感じ取ってくださればと思う。

本書は，国内外で広く活躍する研究者らによって執筆されている。先述したように，多くのジャーナルに論文を掲載しているだけでなく，論文の査読も数多く経験している。また，全員がジャーナルの編集委員（長）として，論文が編集・出版される舞台裏を支えた経験を持つ。さらに，勤務する大学等において，論文の投稿をめざす大学院生の指導に携わる執筆者も多い。そのため本書は，①これから論文の執筆・投稿を目指す英語教師や大学院生だけでなく，②論文を査読・編集する研究者，③論文の執筆を指導する大学教員や指導者にも大いに参考になる内容となっている。本書は，各執筆者らがこれまで長い時間と労力（と汗と涙）をかけて積み重ねてきた成果をもとに編まれたものである。多くの読者の手に取られ，論文の執筆・投稿・査読・編集・指導のために役立てば幸いである。

最後になるが，大修館書店の北村和香子氏には今回もまた本書の企画から編集まで大変お世話になった。本書はまさにプロフェッショナルな編集者の北村氏と各執筆者らとのコラボレーションの成果である。

執筆者代表 廣森 友人

目次

はじめに……iii

序章 論文をなぜ書くのか 2

1. 論文の執筆と投稿のすすめ……2
 - 1.1 論文執筆のメリット／1.2 論文投稿のメリット
2. 読者にとって良い論文とは……8

第1部 論文とは何か

1章 論文の一般的な構成 12

1. 作文・エッセイと論文の違い……12
2. 論文の構成要素……14
 - 2.1 量的研究論文の構成要素／2.2 質的研究論文の構成要素／2.3 混合型研究論文の構成要素

◇コラム1◇ 日頃の教育実践をどのように論文に結びつけるか？（1）
小学校教師が、論文を書くということ……22

2章 実証研究 I（量的研究） 24

1. 量的手法を用いた論文とは……24
2. 量的研究論文に書くべきこと……25
 - 2.1 序文・はじめに／2.2 方法／2.3 結果／2.4 考察／2.5 量的研究論文の例

3. 量的研究をまとめるにあたって気をつけるべきポイント……37
 3.1 良い量的研究とは／3.2 図を使ってデータを可視化する／3.3 序論と考察を深める

◇コラム2◇ エキスパートからのアドバイス (1)
 論文執筆で国際的研究コミュニティへの参加をめざそう……41

3章 実証研究 II (質的研究)

43

1. 質的手法を用いた論文とは……43
2. 質的研究論文に書くべきこと……44
 2.1 序文・はじめに／2.2 方法／2.3 結果／2.4 考察／2.5 質的研究論文の例
3. 英語教育研究における質的研究のアプローチと分析手法……53
4. 質的研究をまとめるにあたって気をつけるべきポイント……56
 4.1 教育的示唆の捉え方と書き方／4.2 誠実な記述をすること／4.3 良い質的研究とは

◇コラム3◇ 混合型研究法を用いた論文執筆……59

4章 文献レビュー・理論研究・方法論研究

61

1. 文献レビュー論文……61
 1.1 文献レビュー論文の例／1.2 文献レビュー論文に書くべき内容／1.3 文献レビュー論文を書く際に気をつけるべきポイント
2. 理論論文……64
 2.1 理論論文の例／2.2 理論論文に書くべき内容／2.3 理論論文を書く際に気をつけるべきポイント
3. 方法論論文……67
 3.1 方法論論文の例／3.2 方法論論文に書くべき内容／3.3 方法論論文を書く際に気をつけるべきポイント

- コラム4 日頃の教育実践をどのように論文に結びつけるか？ (2)
“One for all, All for one” の研究をめざして—中学校の現場から……70

第2部 論文をどのように書くか

5章 投稿準備から出版までのプロセス 74

1. 研究課題の立て方……74
 - 1.1 「研究」の構成要素／1.2 研究課題を立てる際の3つのポイント
2. 論文の投稿準備……77
 - 2.1 投稿先の決定／2.2 投稿先に応じた原稿準備
3. 論文投稿から出版までのプロセス……80
 - 3.1 形式審査／3.2 論文査読／3.3 査読結果の取りまとめ／3.4 別ジャーナルへの論文投稿／3.5 論文修正・再提出／3.6 完成原稿作成・校正刷り確認

- コラム5 近年のジャーナル掲載論文から見える傾向……85

6章 どのように論文は審査されるのか？—査読者の立場から 87

1. 論文査読のプロセス……87
2. 第一次論文審査のポイント……87
3. 第二次論文審査のポイント……88
4. 査読コメントとその対応例……89
 - 4.1 ケース1：修正箇所はわかりやすく詳細に提示する／4.2 ケース2：査読コメントへの回答は論文に反映させる／4.3 ケース3：査読コメントに基づき修正や説明を適切に行う／4.4 ケース4：査読コメントを丁寧に検討して修正を加える

5. 査読者としての思い・願い……96

5.1 査読者は支援者／5.2 投稿者はあきらめずに修正を

コラム6 エキスパートからのアドバイス (2)
国際学術誌へチャレンジ!……98

7章 どのように論文は投稿・掲載されるのか？

—投稿者の立場から

100

1. 論文投稿と査読者からのフィードバック……100

2. 査読者のコメントへの対応—修正しない場合……101

2.1 「論文の良い部分」に関するコメントに対して／2.2 「論文の修正部分」に関する納得できないコメントに対して

3. 査読者のコメントへの対応—修正する場合……104

3.1 「修正することで良くなる部分」に関するコメントに対して／3.2 「より良くするために改良の余地がある部分」に関するコメントに対して

4. 投稿から掲載までのポイントのまとめ……109

コラム7 英語でうまく論文を書くコツ……110

8章 どのように論文は編集されるのか？—編集者の立場から 112

1. 論文編集の舞台裏……112

1.1 形式審査／1.2 査読／1.3 投稿原稿の採否／1.4 完成原稿の提出依頼／1.5 入稿

2. 編集者にかかる手間と負担を減らす工夫と配慮……117

2.1 相応しいジャーナルを選択すること／2.2 明瞭で適切なことばを用いること／2.3 投稿のマナーを守ること

3. 投稿者・査読者へのお願い……118

3.1 投稿者へのお願い／3.2 査読者へのお願い

コラム8 日頃の教育実践をどのように論文に結びつけるか？ (3)
高校教員と論文執筆……120

9章 論文の執筆・投稿と研究倫理

122

1. 論文執筆および投稿時の研究倫理……122
 - 1.1 剽窃・盗用／1.2 改ざん・捏造／1.3 重複投稿/出版とサラミ投稿/出版
2. 調査（実験・研究）参加者に対する配慮……126
 - 2.1 研究プロセス全体で求められる倫理上の配慮／2.2 論文中で行うべき倫理的配慮
3. 査読者に対する倫理指針……129

コラム9 大学院生として論文を執筆・掲載した経験から……130

コラム10 エキスパートからのアドバイス (3)
漫画「北斗の拳」から考える国際誌投稿……132

巻末資料

リソース編

投稿テンプレート・投稿規定……134
英語論文の場合／日本語論文の場合／各ジャーナル（英語教育系6学会）による投稿規定一覧

問い合わせシート……150
量的研究のための問い／質的研究のための問い

論文執筆・投稿チェックリスト……156

引用文献……158

索引……164

編著者・著者略歴……166